

「TS絶頂魔女裁判（仮）」

#0

SE：近未来の繁華街を思わせる街の雑踏

SE：銃声と小さな爆発音。

SE：モブの悲鳴・ギャ・客引き（素材をつかいます）

SE：アナタの足音

Σ

朽ち果てて傾いた電柱、炎上したバイク。

ジャンキーの襲撃を受けて、銃弾飛び交うドラッグストア。

路地に散らかつて腐臭を漂わせている生体スクラップ。

「天然臓器高額買取」の文字が眩しいネオン看板。

蛍光色に輝くデジタルドラッグを売り捌く屋台。

輝く瞳をこちらに向けて、スパークする義足を震わせながら、

違法な記憶チップを売りつけようとしてくるホームレス。

そうかと思えば、体に4本も義手を増設した娼婦が近寄ってきて、

自分の店へ連れ込もうと、血の通っていない、

長くしなやかな腕を絡めてくる。

西暦2248年。ここはヒノモト国ヤブサメ街。

違法医療とヤブ医者 の巣窟にして、国内でも有数のスラム街。

どうして、こんなところに来てしまったんだろう。

絡みついた娼婦の義手をなんとか振り解こうとしながら、

アナタは早くも後悔する。

金銭苦だったとはいえ、

こんな地域でやってる高額報酬の治験になんて、
つられるべきじゃなかった、と。

義手の力が強くなり、

生身であるアナタの腕はミシミシと悲鳴を上げる。

痛みと、恐怖がやってきて、体がすくむ。

声が出ない。

もうだめだ、

そう思った瞬間。

視界に何かが飛び込んでくる。

SE：タタタタツと足音・近づいてくる

それは女の子。

白衣を着た、小柄な女の子。

こちらに駆けてきた、と同時に。

金髪が揺れ、彼女の体がふわりと宙に浮いたかと思うと。

長い足がしなり、空を切り、耳元をかすめる。

ミオ

（蹴り飛ばす際の掛け声）
うらあっ！

ズ

アナタに絡みついてた義手が、すうっと離れて、

その直後、近くの壁に娼婦の体がめり込んで、

鈍い音が、少し遅れて響きわたる。

SE：衝突音のち、バチバチと電流の流れる音

ミオ

（安堵して一息）
ふあああっ……。

間に合ったああっ。

（優しく）

お怪我はありませんか？

ズ

ボブヘアの女の子が、何事もなかったように

髪を耳にかけながら覗き込んでくる。

金髪に黄緑色のインナーカラーが映えた

どこか猫を思わせるような美少女に急に顔を近づけられて、

アナタは助けてもらったお礼を言うのも忘れて、

戸惑ってしまう。

ミオ

ふふふっ。

無事ぶじみたいでよかったです。

（はっと気づいて）

って……そうだ。

申し遅れましたっ。

私。異世界観測センターの、ミオ・ハナムラと申しますっ。

この度はお迎えおむかえにあがりました。

アナタがうちの治験ちけんに協力きょうりょくしてくださいさる方かた……

で、あつてますよね？

え？

そりゃあ、そんな小綺麗こぎれいな格好かっこうしてたら、

うちの治験ちけんの人だらうなって、

目星めぼしくらいはつきますよ。

この辺へんに出入りでいりしている人間にんげんは、

おたずねもの、ハツカー崩れくずれ、医療関係者いりようかんけいしや、

あとはジャンキーと娼婦しょうふくらいしかいません。

（笑う）

ふははっ♪

だいたいまともな格好かっこうはしていませんからね。

（たしなめるように）

まあ、それはさておき。

近くに來たらうちへ連絡するようには、

募集要項ぼしゅうようこうには書いてあったかと思うのですが？

自慢じまんじゃないですけど、ここは治安ちあんが悪いですから。

さっきの娼婦しょうふだって、あの感じは

アナタをバラして臓器ぞうきばいばい売買する気でいましたよ？

アナタのような名門めいもん大学だいがくに通かっている、

エリート学生ぞうきさんの臓器ぞうきはマニアが多くて、

肉屋にくやで高額取引こうがくとりひきされていますし。

くれぐれも、私から離れて

治験ちけんの前に肉片にくへんになるのだけはやめてくださいね。

私、スウィーニーな感じのトッドなお話とか、
そういうのはあんまり好きじゃないですから。

SE：足音

SE：がちゃっと戸の開く音

ミオ

さあ着きましたよ。

ここが我々が異世界観測センターですつ。

ちよつと散らかってはいませんが、

人が歩く動線どうせんは確保かくほしていますので、

うまいこと避けて歩いてください。

㇏

そう言ッてミオに案内されたのは、

九龍城のごとくビルが複雑に絡まり合ッた集合住宅の一室だッた。

そこそこ広い部屋の中には、怪しげな機械類がそこらじゅうに積まれている。

機械を踏まないように気をつけながら、アナタは部屋の中心に置かれた

医療用ポツドの前へ連れていかれる。

ミオ

なんの変哲もないポツドに見えるでしょう？

けどこれが、これこそが異世界への渡航を可能にする装置なんですよ？

ふふふふん♪

——あッ、そういえば。ひとつお聞きしたいことがあッたのです。

失礼ですが、今回の治験のことは……。

どちらでご存知になられたのでしょうか？

——ああ、やッぱり。

同じゼミの先輩から勧められて、ですか。

(恐る恐る)

その先輩ッて、最近以前とどこか、性格とか

変ワッたりは……してませんでしたか？

ああ、いえッ。こちらの話です。

お気になさらずッ。

それでは、すでにご存知かもしれません、

今回の治験ちけんの内容について

簡単に説明させていただきますね♪

ここ、異世界観測センターでは、

私たちの住むこの世界の他に、

私たちがありとあらゆる選択肢せんたくしに遭遇そうぐうするたびに分岐ぶんきして派生はせいした、

無数の並行世界へいこうせかい、いわゆるパラレルワールドが存在くわいすると仮定かていして、

日々、実験を行っています。

並行世界へいこうせかいでの人類はどうなっているのか？

分岐ぶんきしてしまったものの可能性の人類史じんるいしが、

どのようなになっているのか。

さぐり、仮定かんていし、観測かんそくし、

私たちのいる世界で得ることができなかった知識や技術を取り入れ、

収斂しゅうれんさせることで、今いるこの世界にブーストをかけるのを目的としています。

言うなれば企業スパイきぎょうのようなことを目論もくろんんでいるわけです。

と申しましたが、今まではそうした並行世界へいこうせかいに干渉かんしょうするのは

現在の技術をもってしても困難な話！

（得意でいげに）

——だったのですが、先日ついに！

できてしまったのです。つくってしまったのですよ。

並行世界へいこうせかいを観測かんそくし、渡航とこうできるこの装置を！

まさに革命的発明！

ノーベル賞まったなし！

——といたいところなんですが。

装置はまだ開発段階かいはつだんかいでして。

作った方がいいのですが、

動作の安定には程遠い状態でして。

職員も今は私しかいませんし……。

そこで、治験ちけんを募ったわけです。

二百年ほど前にも流行はやりりましたが、

ほら、いつの時代も、

異世界転生いせかいてんせいとか違う世界を冒険ぼうけんするお話って、

若いお方おかたには人気にんきでしょう？

まさにそれと同じ要領ようりょうですよ。

平たくいえば私が開発したこの装置は、

アナタの意識いしきを並行世界へいこうせかいのアナタと入れ替えるものなんです。

装置つなに繋がれ、瞼まぶたを閉じて、

気がつけばアナタは並行世界へいこうせかいのアナタになっている。

そうして、誰にあやしまれることもなく、

アナタは異世界いせかいを探索たんさくすることができるようなんです。

今回は軽いテスト起動きどうですから。ほんのすこしの間、

異世界いせかいをのぞいてきて、感想を教えてくださいただけで構かまいけません。

ノルマもなし。

ちよっとした旅行気分りょこうきぶんで参加さんかしてくだされば良いのですっ♪

素敵すてきだと思いませんか？

——ふふふっ♪

アナタなら、そう言ってくださると思っていました。
どうか、よろしくお願いいたしますね♪

1
旅路

SE: 機械の操作音

ミオ

それでは、異世界への旅立ちの前に、装置を調整しますので、

まずは服を脱いで、ポッドに入ってお待ちください。

ちよつと狭そうに見えるかもしれませんが、

中は広く作られていますので、横になると結構快適なんですよ？

かくいう私も、ときどき中で仮眠とったりしてますし。

え？ 見られているのがはずかしい？

大丈夫ですよ。

ポッドに入るまで、私も目を閉じておきますから。

SE: 衣ずれ

どうですか。お洋服、脱ぎ終わりましたか？

脱いだ服は横のカゴに入れてくださいね。

そろそろ大丈夫ですか？

目を開けますよ。いいですか。

ふふふ♪

ちゃんとポッドに入れたようですね。

ではポッドを閉鎖していきますね。

SE: 金属製の蓋が閉まる音

ミオ

あーあ。

これで、もうポッドから出ることはできませんね♪

な〜んて、大丈夫ですよ。だいじょうぶ

安全な作りになっていますからね♪

まずは、ポッドにパーフルオロカーボンをベースにした、

液体状えきたいじょうのナノマシンを注ぎ込んでいきます。

ざっくりいうと、水中で呼吸したり、

健康状態を読み取ることができる、

とろつとした温泉みたいなものを流し込みます。ながしこみ

温かくて、気持ちよくて。あたたかくて

ベッドで寝るより、よく寝れる人もいるくらいなんですよ？ねれる

寝ながらお風呂に入れるようなものですから、

ちよつとお得ですよね♪おとく

ふふふ♪

目に入るとちよつと沁みるので、しみる

瞼まぶたを閉じて、肩かたの力を抜いて、ゆったりと横になっていてくださいね〜。

SE：温泉の流れ込む音を後ろで流します

ミオ

どうですか〜？

少しぬるいかもしれませんが、

あたたかくて、気持ちいいですよね。

このまま中を満みたたしていきます。

（間）

うん、すっかり中がいつぱいになりましたね。
ああ、そうだ。

無理に息を止めたりしてはいけませんよ？

水中呼吸に移行する際に、

空気が肺に残っているとかえって苦しいことになりますから。

少し怖いかもしれませんが、

水中で、ゆっくりと深く呼吸をして。

体の中の空気を出し切ってしまいましょう。

落ち着いて、私の声に合わせて、

呼吸を試みてください。

まずは、体から空気を絞り出すように、

息を長く、はき出していきましょう。

さあ、ふうううーっとはきだしてー。

空気を出し切ってー。

SE：ゴボゴボと泡の音

ミオ

肺に残っていた大部分の空気が出ていきましたね。

あとはこのまま、深呼吸をして、

残った空気も出し切ってしましましょう。

さあ、液体を飲み込むようなイメージで、

今度は息をすってえー。

あたたかな。

ゆっくりはいてー。

液体が。

すってえー。

肺の中を。

はいてえー。

満たしていく。

すってー。

温かくて。

はいてー。

気持ちいい。

すってー。

胸の奥が。

はいてー。

だんだん温かくなっていく。

すってえー。

ここちいい。

はいてえー。

気持ちいい。

すってえー。

はいてえー。

いい感じですよ。

そのまま続けていてくださいね。

さてと。今度は、体^{からだ}から力を抜いて、

肺^{はい}から取り込んだ^{とりこんだ}ナノマシンを

全身に馴染^{なじませ}ませていきましょうか。

指先^{ゆびさき}を握り込んで、ぎゅうつと力^{ちから}を入れて^{いれて}みてください。

そう、ぎゅううーつと、力を絞り出す^{しぼりだす}ような感じでー。

3、2、1

……ゼロ。

はい。指先^{ゆびさき}を開いて、力^{ちから}を抜いてー。

どうですか？ 指先^{ゆびさき}から力^{ちから}が抜けでて、

液体^{えきたい}に体^{からだ}が溶けていくみたいでしょう？

さあ、もう一度^{いちど}。

残った力^{ちから}すべてを振り絞る^{ふりしぼる}ように、

手足^{てあし}にぎゅううつと力を入れてー。

3、2、1

……ゼロ。

SE:フリー素材より耳元の吐息エフェクト混ぜます

ふわ〜っと力が抜けていく。

指先から、手足から、体から

力がするりと抜けていく。

さあ、もう一度。

体に残ったわずかな力まで、

ぜんぶ絞り出すようにして、

手足にぎゅうううつと力をいれてえ〜つ。

3、2、1

……ゼロ。

SE：フリー素材より耳元の吐息エフェクト

力がふわ〜っと抜けていく。

開いた指先から、全身の力が抜けていく。

残っていた力が全て抜け出て、

体に力が入らない。

（ここらへん編集時にパン振ります）

温かい液体に包まれて、

気持ちよくて、

ここちよくて。

なんだか頭もぼうつとしてくる。

気持ちいい。

温かい。

気持ちいい。

あたたかい
温かい。

気持ちよくて、あたたかくて温かくて。

ぼうつとするのが心地いい。

あたたかく温かくて、幸せな気持ちで、

みたされ満たされていく。

気持ちいい。あたたかい温かい。幸せ。

あたたかい温かい。気持ちいい。幸せ。

あたたかくて温かくて。優しい感覚に抱いだかれて。

頭がどんどん、ぼうつとしてくる。

あたたかくて温かくて。気持ちよくて。眠ねむたくて。

今にもとろけてしまいそう。

考えるのがだんだん、面倒めんどうくさくなっていく。

気持ちいい。あたたかい温かい。

気持ちいい。あたたかい温かい。

気持ちいい。

ぼうつとするのが。

あたたかい温かい。

なんだかとても心地こちいい。

気持ちいい。

だんだん何にも。

あたたかい温かい。

考えられなくなっていく。
気持ちいい。

意識が、

もう何も。

深いところへ。

考えられなくなっていく。

沈んでいく。温かい。

沈んでいく。心地いい。

ゆつくりと。温かい。

沈んでいく。ここちいい。

沈んでいく。暗いところへ。

沈んでいく。沈んでいく。深いところへ。

沈んでいくのが心地いい。

沈んでいく。温かい。心地いい。

意識の深く。暗く。温かく。ここちのよい、みなそこへ。

ゆらゆらと。

沈んでいく。

ゆらゆら。ゆらゆら。

沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。ゆらゆら。沈んでいく。

沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。(FO)

アナタは意識の底へたどり着く。

そこは温あたかくて、幸せな場所。

おかあさんに優しく抱だきしめられたように、
心地よくて、気持ちのいい場所。

ただそこにいるだけで、幸せな気持ちに満みちていく。

不思議ふしぎな場所。

SE：機械の操作音・水のたゆたう音

ミオ

準備できたみたいですネ。

それでは異世界いせかい渡航システム「クララ」起動します。
どうか、良い旅を。

SE：機械の動作音

ズ

暗く、暗く。深い、深い。

意識いしきのそこに穴あが開く。

アナタは穴に吸い込まれるようにして、

さらに奥おく深くへと沈しずんでいく。

ゆらゆら。ゆらゆら。ゆれながら。たゆたいながら。

沈しずんでいく。

ゆらゆら。ゆらゆら。ゆらゆら。ゆらゆら。

ゆらゆら。ゆらゆら。

沈しずんでいく。

沈しずんでいく。沈しずんでいく。沈しずんでいく。

沈しずんでいく。沈しずんでいく。沈しずんでいく。沈しずんでいく。沈しずんでいく。沈しずんでいく。

深く深く。沈しずんでいくほど。

ぽかぽか温あたかくなっていく。

沈しずんでいく。ぽかぽか。沈しずんでいく。ぽかぽか。

ゆらゆら。ぽかぽか。ゆらゆら。ぽかぽか。

深く、深く。沈しずんむほど。

幸せな気持ちがあふれてくる。

どんどん気持ちよくなってくる。

沈しずんむ。沈しずんむ。沈しずんでいく。

深く、あたたかで、幸せで、気持ちのいい場所へ。

沈しずんでいく。沈しずんでいく。沈しずんでいく。沈しずんでいく。沈しずんでいく。沈しずんでいく。

深く。深く。沈しずんみながら。

アナタは穴の奥深くから、光が差し込さしこんでいるのに気づく。

それは出口でぐち。

それは旅の目的地もくてきち。

どこか懐かしいなつかしい。

柔らかやわらかで、あたたかな光に誘いざなわれるようにして。

アナタは深く、深くへ沈しずんでいく。

沈しずんでいく。沈しずんでいく。沈しずんでいく。沈しずんでいく。沈しずんでいく。沈しずんでいく。

沈しずんでいく。沈しずんでいく。沈しずんでいく。

沈しずんで。沈しずんで。沈しずんで。

アナタは気づく。

アナタは沈しずんみながら、浮かび上がっている。

心地の良^{よい}い。温^{あた}かな光^{かな}へむかって、

いつの間にか浮かび上がっている。

上^{うえ}と下^{した}とが回^う転^ずし、渦^{うず}巻^{まい}いて。

ふわふわと浮かび上がって。

温^{あた}か^{たか}で、やさしくて

懐^なか^{つか}しい光^{しい}のなかへ、吸^すい込^こまれていく。

ふわふわ。ふわふわ。ふわふわ。ふわふわ。

ふわふわ。光の中に。

ふわふわ。ぼんやりと人の影があらわれる。

それは裸^{はだ}の女^かの子。

華^き奢^やな体^{からだ}で、茶^ち髪^やをツインテールにした。

小さくて可愛い女の子。

ふわふわ。ふわふわ。

彼女に吸^すい寄^よせられていく。

ふわふわ。ふわふわ。それがとっても心地いい。

ふわふわ。ふわふわ。

近^きづくにつれ、彼女の姿がはっきりしてくる。

ふわふわ。ふわふわ。

頭^ねから生^こえた、大きな猫^{ねこ}耳^{みみ}。

ふわふわ。

柔^やらか^{らか}そうな毛^け並^なみにつつまれた体^{からだ}。

ふわふわ。

毛^け並^なみに覆^おわ^{われ}れた、形のいい大きなおっぱい。

ふわふわ。

長く可愛らしい尻^{しつぽ}尾^ぽ。

ふわふわ。

大きくて、長い睫毛が印象的な目元。

琥珀色の瞳。縦長の瞳孔。

ふわふわ。

美しい瞳に見つめられ、あなたはドキドキしてしまう。

ふわふわ。

三毛猫のような体の模様。小さな口元。

ふわふわ。

お日様のような優しい香り。

ふわふわ。

彼女は猫の女の子。

ふわふわ。

肉球のある彼女の手が、

あなたに触れて、そっと囁く。

（少し響くようなエフェクト入れるかもです）

あなたはあなた。あなたはあなた。

あなたはあなた。あなたはあなた。

あなたはあなた。あなたはあなた。

あなたはあなた。あなたはあなた。あなたはあなた。

だから何にも遠慮しなくていい。

あなたはあなただから、あなたの願いをしっている。

あなたは女の子になりたい男の子。

女の子になってみたくてたまらない。

それも小さくて可愛い、ケモノの女の子になって。

女の子とエッチなことをたくさんしたい、

そう思っているんでしょう？

あなたはみたいな女の子になってみたい。

そう願っているんでしょう？

アタシはアナタ。アナタはアタシ。

だから、アタシの体^{からだ}をあげましょう。

アナタの体^{からだ}とアタシの体^{からだ}。

アタシの人生とアナタの人生。

ぜーんぶ交換^{こうかん}してしましましょう。

アタシの願いを叶えてあげる。

だってアタシもアナタみたいになってみたいから。

アナタもアタシだから同じ気持ちでしょう？

もしも、アタシみたいな女の子になれば。

大きなおっぱいと、ふわふわの体毛^{たいもう}、

可愛^{びんかん}くて敏感^{びんかん}で小さくて非力^{ひりき}な体^{からだ}で、

自分より大きな体^{からだ}になった女の子に、

押さえつけられて、

えっちなことをされちゃったら。

そんなことを想像するだけで、

胸がドキドキしちゃうでしょう？

しってるよ。

だってアナタはアタシだから。

アナタはアタシ。アタシはアナタ。

アナタは誰？ アナタはアタシ。

アナタは誰？ アナタはアタシ。

アナタは誰？ アナタはこれからアタシになるの。

だってアナタはアタシだし。

アナタはアタシになりたいんだから。

アタシになるのは当たり前で自然なこと。

そうでしょう？

だからアタシたちの全部をとりかえましょう。

いいですね？

今からカウントダウンしていきます。

ゼロになると、

アナタは三毛猫みけねこの可愛い女の子。

ただし発情はっしょうすると性欲に支配され、

理性がなくなる女の子になり、

幸せを感じながら絶頂ぜっちょうしてしまいます。

5

女の子の体からだにアナタの意識いしきが、

すうっと吸い込まれてしまう。

少しして、着ぐるみをきているような、

不思議な感覚がして、

アナタの背筋せすじをぞくぞくとした快感が突き抜けていく。

これから女の子になってしまう。

本当にケモノの女の子になってしまう。

そんな予感がして、

不安と期待と嬉しさが、溢あふれれてくる。

アナタの頭の中に、白い光の玉がふわりと生まれる。

4

体からだの感覚が伝わってくる。

おおきな胸の重さを胸元むなもとに感じる。

顔の横についていた耳が、

人間にんげんの時よりずっと大きくなり、

頭の上の方についているのがはっきりわかる。

口の中の歯が尖り、

舌が少しざらついているのがわかる。

体に生えた柔らかな毛並みが、

感情で大きく動くのがわかる。

手足の先が少し膨らみ、

指先には爪と柔らかくてぶにぶにの肉球があるのがわかる。

敏感な長い尻尾が、

お尻の少し上から生えているのがわかる。

ツインテールに結った長い髪が、

さらさらと頬に当たるのがわかる。

体毛に隠された股間には、

女の子の割れ目ができているのがわかる。

お腹の奥には子供を産むための子宮があり、

女性ホルモンをたっぷり生み出す、

卵巣があるのがわかってしまう。

自分の体が猫の女の子になってしまったのを、
理解する。

アナタの中の光の玉が、だんだん大きくなっていく。

——アタシの記憶きおくをうけとって。

体からだの中に何かが流れ込んでくる。

それは三毛猫みけねこの女の子としての記憶きおく。

アナタは幼い時、家の柱いえはしらで爪研つめとぎぎをして、お母さんに怒られた。

アナタは幼馴染おきななじみの女の子に恋をしたけどふられてしまった。

アナタは成長すると、すぐに発情はっじょうする体質たいしつになってしまった。

その体質たいしつのせいで、いつでもどこでもムラムラしちゃうから。

ぜんぜん勉強に集中することなんてできなくて、

アナタはどんどん性欲おぼれに溺れて、落ちこぼれのギャルになってしまった。

アナタが好きなのは尻尾しっぽを使ったオナニーで、毎日している。

アナタはエッチがすきですきでたまらなくて。

アナタは女の子がすきですきでたまらなくて。

女の子が好きな女性向けの、レズビアン風俗で働いている。

アナタは女の子同士でセックスすることしか取り柄とりえがない、

おばかであつちな、三毛猫みけねこの女の子。

発情はっじょうすると、脳みそ空っぽになっちゃって、

アイキューはゼロ。

エッチなこと以外何も考えられなくなる、

どうしようもない女の子。

ちがう、そんなはずはない。本当の自分はちがうのに。

どこかでそう感じるのに。

アナタは頭がぼうつとして、なぜそう感じるのかわからない。

ただ、自分の記憶までもが、三毛猫の女の子に染められていく。

その事実が、なんだかとても気持ちいい。

三毛猫の女の子の記憶しか思い出せなくなっていくのが心地いい。
頭の中の光の玉が、さらに大きくなっていく。

2

アナタの体が熱くなる。

しっぽが疼いてひくひくする。

知らないはずの、

「いつも」のオナニーをしたくてたまらなくなる。

尻尾の先端を硬くして、

自分の割れ目にそっと這わせる。

興奮で逆立った毛が敏感な割れ目に触れる。

脇の下を筆で撫でられたくすぐったさを

百倍にしたような快感が溢れてくる。

触れるたびに、体と意識がふわふわして、気持ちよくなっていく。

すりすり。すりすり。

だんだんお腹のあたりが熱くなり、

しっぽを動かすのが止まらなくなる。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

クセになる。クセになっちゃう。

ほんとはそんなダメなのに。

しっぽで割れ目をすりすりするのがクセになっちゃう。

アナタの中の光の玉が、チカチカと点滅し始める。

しつぽの動きが早くなる。

それに合わせて体が自然と動いてしまう。

腰は揺れ、

指は大きな胸をもみしだく。

快感が、体の感覚が、

さつきよりもずっと鮮明に感じられる。

記憶が、女の子としての記憶が。

より、はつきりしてくる。

女子校に通っていたこと。初めての生理。

しつぽにお気に入りのアクセサリーをつけていて、無くしたこと。

体が小さいのがコンプレックスなこと。

この体にとっての当たり前が押し寄せてくる。

変わっていく。変わってしまう。

変わっちゃう。

体ちっちゃくて、非力で、おっぱい大きいメスケモになっちゃう。

エッチ大好きですぐに発情するおバカなにゃんこに染まっちゃう。

変わる。変わってしまう。

変わっちゃうのが気持ちよくて。

うれしくて。

ほんとはメスケモじゃなかったのに。

そう思うだけで、快感がぞくぞく湧き上がってくる。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

メスケモになるのが気持ちいい。

本当は男の子だったのに。

おバカなメスケモに染まっちゃうのが気持ちいい。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

体も、記憶も、ぜんぶ変わっちゃうのが気持ちいい。

もうイキそう。イってしまいそう。

おばかになっちゃう。

メスケモになっちゃう。

メスケモとしていっちゃいそう。

手も足も、尻尾も、全身から、

いやらしいメスケモの匂いを漂わせてる。

それはもうアナタの匂い。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

頭の中の光の玉の点滅が、早くなる。

ゼロ

絶頂する。

頭の中の光の玉が、爆発する。

快感の爆風が巻き起こり、アナタの意識を吹き飛ばす。

気持ちよくて、幸せで。

嬉しくて。気持ちよくて。幸せで。気持ちよくて。

頭のなかが真っ白になる。

絶頂する。

腰が揺れる。頭が揺れる。耳がびくびく痙攣しちゃう。

いく。イクイクイクイク♪

絶頂^{ぜっちょう}する。絶頂^{ぜっちょう}する。絶頂^{ぜっちょう}する。

意識^{いしき}が途切^{とぎ}れて、真^まっ白^{しろ}で気持ちいい世界へ沈^{しずん}んでいく。

沈^{しずん}んでいく。気持ちいい。沈^{しずん}んでいく。気持ちいい。

沈^{しずん}んでいく。沈^{しずん}んでいく。沈^{しずん}んでいく。沈^{しずん}んでいく。沈^{しずん}んでいく。沈^{しずん}んでいく。(FO)。

2
ようこそ裁判所へ

濡れた布団。

汗ばんだ体。

体に張り付く、長い髪。

むせそうなほど溢れた、メスの体臭。

ぐったりとした重い体を動かして、

あなたはゆっくりと瞼をひらく。

シャンドリア風の照明。

天蓋付きのベッド。

薄いピンク色の壁紙が目に入る。

ここはお客さんとよく行くラブホテルだと、あなたは気づく。
女の子受けがいいから、よく使っている。

そんなことを、なぜか自然と思い出しながら、
あたりを見回す。

お客さんらしい、

可愛いウサギの女の子がどこかに電話をかけている。

漏れでている言葉から、電話の相手はどうやら警察。

寝起きでぼうつとしていて、

どこか人ごとのように考えていたが、

警察に通報され、連行されたのはあなただった。

(間)

SE: 鉄製ドアの開く音

SE: 足音

㇏

アナタは訳もわからないまま、

裁判所に連行される。

そこは異端審問所と呼ばれる特別な裁判所。

アナタは意識を取り戻す前、お客さんがそばにいるのに

自分が

本当は人間の男だ、

と寝言でつぶやいてしまったのだ、

と警察官から聞かされる。

自分が人間だと語るのは重罪。

人間はかつてアナタたちケモノの民を、

絶滅させようとした異端の存在。

そんなものであるはずがない。

そんなことを言うはずがない。

もしそんなことを言ってしまったら、

人間擁護派の裏切り者、異端者として

こうして異端審問にかけられてしまうのだから。

と、そこまで考えて、

アナタはハッとする。

SE：ノイズ音

突然、記憶がフラッシュバックする。

有名大学。大学生。入れ替わり。

アナタはメスケモじゃなかった。

少し前まで、男だった。人間のオスだったのを臍げに思い出す。

どんな男だったのか、

もうぼんやりとしか思い出せないけど、

確かにオスの人間だった。

アナタの背筋を冷や汗がつたう。

もしも、元人間なんてバレてしまったら、

アナタは、処刑されてしまうだろう。

アナタは服を脱がされ、

証言台へ、案内される。

裁判官、陪審員、傍聴席のケモノたちのいやらしい視線が、

ねつとりとアナタの体に注がれる。

異端審問での証言。

それは、自分がケモノであることを証明するための救済措置。

そして、それはある種の見せ物。

証人とケモノらしく激しいエッチをして、

その場にいるみんなを満足させなくてはならない。

それがアナタの住む世界の常識。

ㄤ

証人席に、長身の猫の獣人が現れる。

金髪に、蛍光グリーンのインナーカラーのショートカット。

彼女はミオ。アナタのルームメイトであり、彼女。

本当は初対面なのに、

アナタの中に、ミオとの思い出がつきつきに溢れ出す。

一緒にちよつと過激な下着を選んだこと。

飲み屋で男に絡まれた時に助けてくれたこと。

もともとは風俗のお客さんで、こっそり付き合っていたこと。

と同時に、アナタの人間時代の記憶が再びフラッシュバックする。

治験。アナタより背の低い、白衣姿の人間のミオ。

この平行世界におけるミオが彼女だと、
アナタは直感的に理解する。

ミオ

どうしたんです？ ぼうつとしちゃって。
(少し楽しそうに)

ほら、アナタが人間のオスなんかじゃなくて、

心の底から紛れもないメスケモだって、

皆さんにちゃんと証明しなくちゃいけませんよ？

ㄤ

ミオが服を脱ぎ捨て、アナタのそばにやってくる。

入り乱れる記憶に困惑しながら、

アナタはミオの毛並みを見つめる。

雪のように白い毛並み。

雨に似た少し甘い体からだの匂い。

知らないはずなのに、胸の鼓動が早くなる。

体からだがじんわり熱くなる。

お腹おなかの奥も腰も、乳首ちくびも、尻尾しっぽも。

ミオとの出会いを待ち侘びていたかのように、全身が疼うずき始める。

何度も愛し合った。体からだが覚えている。

ミオ

っふふふ♪

まだなにもしてないのに♪

極太乳首ごくおとちくびぼつきさせて、

そんなに切せつない表情ひようじょうしちゃって。

ひよっとして、みんなに見られて緊張きんちようしてるんですか？

それとも、私に会えたのが嬉しくて、

発情はっじようしちゃいました？

我慢が苦手ですものね？

その可愛い胸も、お尻しっぽも、

私に、可愛かわいがつて欲しくて、

ぴくぴくしてますよ♪

ズ

ミオの指先がアナタの下腹部を、

下から上へそうっとなぞるふりをする。

触れられてもいないのに、

体に寒気に似た快感が走って、

頭がぼうっと痺れてしまう。

お腹の奥がきゅうっと切なくなつて、

足が内股になつてしまう。

ミオ

（甘く囁く）

だから、まだ。さわってませんってば。

そのいやらしい乳首も、

柄がマダラで誘うようなしつぽも、

先端の毛がちよこんとのびた猫耳も。

女の子の部分も、ふとももも。

ズ

言葉で指摘された箇所が、

燃えるように熱くなる。敏感になつていく。

気持ちよくなりたい。

触れて欲しい。

体に切なさがあふれていく。

周りの目があることなんて、麻痺したみたいに感じない。

ミオの指が欲しくて、欲しくて、たまらなくなる。

欲しくて、欲しくて、たまらなくて。

苦しくて、苦しくて。からだ体が乾いて。

自然と口が、ものほしそう物欲しそうに開いてしまう。

ミオ

本当に、どうしようもない三毛猫。みけねこ

けど、本能にすぐ支配されちゃう、
そういうちよつとバカなところ。

私は好き♪

（キス音）

んっ♪ちゅうっ♪じゅるうっ♪れろっ♪
ちゅっ♪んあっ♪んぷっ♪れろおっ♪
ちゅううっ♪ちゅ♪んあっ♪れろおっ♪
んはっ♪んちゅっ♪れろっ♪んはあっ♪

（ここ編集でキス音と被せます）

ズ

ミオの舌が、口の中に押し入ってくる。

ざらついた猫の舌同士が、絡み合い、こすれあう。

くちのなか口の中の上の方を、うえのほう舌の裏側を。

弱いところを、舐められて。蹂躪されて。

舌が動くたびに、思考が飛んで。

いしき意識が白む。しらむ

カクカク頭が揺れそうになるのを、
ミオの腕で押さえ込まれる。

逃げ場のない快感で、頭の中が塗りつぶされていく。
気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

どくん。と心臓が跳ね上がる。

呼吸が一瞬止まり、

すぐに狂おしいほどの渴きと、

全身を焼き尽くす、快感の熱がやってくる。

気持ちいい。欲しい。

気持ちいい。苦しい。

もっと気持ちよくなりたい。もっと欲しい。

どうしようもなく苦しくて、

切なくて。

涙で視界が滲み。体毛が逆立つ。

発情する。

気持ちよくなること以外、もう何も考えられなくなる。

発情する。

人間らしい思考ができなくなる。

発情する。

もうアナタは、性欲を満たすことしか頭にない。
ただの動物。

発情する。

アナタはもう、人の言葉も話せなくなる。
にやあにやあエッチな声でなくことしかできなくなる。

発情する。発情する。発情する。発情する。発情する。

エッチな鳴き声で甘えたり喘ぐことしかできなくなる。

ミオ

キスだけでここまで発情するなんて、

本当にしょうがない子。

続きがして欲しいんでしょう？

苦しいんでしょう？

でもこれは裁判だから、

まずはちゃんと弁明しなくちゃね。

べんめいって意味わかる？

むずかしくてわかんないね。

いいよ、鳴き声のままでいいから、

あっちにいるえらそうなお姉さんにむかって、

私の言う言葉をくりかえしてね♪

「私は、人間のオスなんかじゃありません」

ほら言えるかな？

一緒に言ってあげるから、ちゃんとにゃんにゃん鳴いてね♪

「わたしは。にんげんの。おすなんかじゃ。ありません」

とってもむずかしかったけど言えたね♪

えらいえらい♪

ㇿ

頭を撫でられて、嬉しくて気持ちよくて、

腰が疼いて、愛液をだらだら割れ目からこぼしてしまう。

ミオ

ふふふ♪

こんなに愛液垂れ流してる子が、

オスな訳ないですよね、裁判長♪

ええ、そうですね。

法廷を汚してはいけませんものね♪

（途中からクチュ音系などの煽り素材被せます）
ミオがかがみ込んで、アナタの足を押し広げる。

緩み切った割れ目にキスされる。

口元のふさふさの毛が当たって、

アナタの腰が小さく跳ねる。

腰が浮いた拍子に、ざらついた舌が押し込まれ、

割れ目の中に潜り込む。

ぬふぬふと、蜜をかきだすように舌が動く。

敏感なヒダがかきならされて、

熱いお腹の内側から、

溶かされるような快感が、

波となって押し寄せる。

熱っぽい愛液が溢れ、

びちゃびちゃとミオの顔を濡らしていく。

気持ちいい、あふれる。

気持ちいい。あふれる。

腰が、うねってバランスが崩れて、

アナタは法廷の床に、倒れ込む。

倒れた後も舌の動きはとまらない。

ほんの束の間、愛液で濡れた髪をかきあげて、

ミオはまた割れ目に食欲に吸い付いて、離れない。

愛液を啜り、ごくりと飲み込む音がする。

舌で、唇で。股間こかんが鋭い舌先で突かれ、激しく、優しく責められる。

股間こかんから、電気のような快感がはしり抜けていく。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

舌で、割れ目われめのフチを舐め回されるの気持ちいい。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

お腹おなかの中の熱くてざらついたところ舐められるのが気持ちいい。

気持ちいい、気持ちいい、気持ちいい、女の子気持ちいい。気持ちいい。

気持ちよくて、体からだが痙攣けいれんし始める。

ヒザが震えふるえ、お腹おなかがうねり、しつぽがビクビクしてしまう。

もつと。もつと。もつと。もつと。

本能に突き動かされて、

息絶え絶えいきたえだえに、か細い喘ぎ声かほそいあえぎこえを上げながら、

更なる快感を求めています。

指が疼うずいて、

アナタは自分の敏感な乳首びんかんちくびを弄いじり始める。

震える指ふるえで転ころががすようにつまみ、

下から弾はじいては、時々爪つめを食い込ませて、ひねる。

体からだが自然と覚えている。

どうすれば気持ちいいのか知っている。

快感が、股間こかんからも胸からも、

湧わき出てきて、あふれてきて、押し寄せてきて

（ここ編集で少しエフェクトかけるかもしれません）

頭がおかしくなっちゃってしまいそう。

おかしくなる。おかしくなる。おかしくなる。

おかしくなる。おかしくなる。おかしくなる。

おかしくなっちゃうのに。

爪の先で乳首をカリカリと刺激して、気持ちよくなるのを止められない。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

いく、いっちゃう。

愛液ドバドバぶちまけて、

もういっちゃう。

頭の中真っ白で、

頭の中真っ白になっちゃって、

気持ちいい真っ白な世界へ。

いっちゃう。出ちゃう。もういっちゃう。

イクイクイクイク♪イクイクイクイク♪

脳が焼き切れて、絶頂しちゃう。

イクイクイクイク♪イクイクイクイク♪

絶頂する。絶頂する。絶頂する。絶頂する。絶頂する。絶頂する。

絶頂する。絶頂する。絶頂する。絶頂する。絶頂する。(FO)

#3 審議

SE: ぺちぺち頬を叩く音

ミオ

ちよっと、まだ裁判の途中ですよ？
おきてください。

ズ

ミオの声がして、アナタは絶頂ぜつちようの余韻よいんに残った体からだをなんとか起こす。

ミオ

みんなの前であんなに簡単に発情はつじようして絶頂ぜつちようしちゃうなんて。
それでも私の彼女ですか？

少しは堪える努力こたえるをしてもらわないと尻軽しりがるだと思われますよ♪

ふふふ♪

(思い出して)

ああ、そうです。

アナタが絶頂ぜつちようして気を失きをうしなっている間あいだに。

陪審員ばいしんいん、あっちの方にいる人たちから、

アナタのクリトリスが少し大きくみえる。

極小のペニスの可能性がある、

との意見がでまして。

皆さんの前で、クリトリスでオナニーしていただけますか？

いつもやってるみたいに自分でしたほうが、

クリトリスのオナニーに慣れてる感じがでて、

人間のオスなんかじゃないっていうアピールになりますからね♪

さあ、どうぞ。こちらに横になって。

ズ

少し馬鹿ばかげた要求たようきゆうだと思いがち、

頭がふわふわ、ぼんやりして思考がまとまらない。

アナタは言われるままに

証言台の近くに用意された、ソファの上で横になる。

仰向けになり、あたりを見回せば、

視界に入る、あらゆる場所から情欲にまみれた視線をあげせられている。

今更ながら、恥ずかしさがこみあげてくる。

ミオ

ふふふ♪

見られているのが恥ずかしいなら、私を見て、オナニーしてみたらどうです？

アナタは私のものなんですから。

私だけのために、オナニーしてくれますよね♪

ズ

ミオのしつぽがアナタの乳首を弾く。

いったばかりの、まだ敏感な体に快感の波紋が広がっていく。

胸が、手足が、指先が、耳が、しつぽが。

体毛が逆立って、

体が熱を帯びていく。

発情する。

体が鋭敏になり、思考が意識が、性欲に塗りつぶされていく。

発情する。

気持ちよくなりたい。

快感を求める気持ちが、体からだの中で渴かわきに似た苦しみとなって現れる。

発情はっしょうする。

気持ちよくなりたい。気持ちよくなりたい。

満たしたい。満たしたい。満たしたい。満たしたい。
苦しい。苦しい。苦しい。苦しい。苦しい。苦しい。

発情はっしょうする。

アナタは性欲に支配されたケモノ。

人の言葉がしゃべれなくなる。

発情はっしょうする。

性欲からだに体あやを操つられるまま、

アナタはまだぐっしより濡ぬれている、割われ目に指を伸ばしていく。

愛液あいえきをすくいとり、

入り口の淵ふちと、クリトリスの隙間すきまへ指を這はわせ、

指の腹はらで撫なで回す。

濡ぬれた指先の柔らかな毛が、

クリトリスと割われ目めの周りをゆるやかに刺激しげする。

深く、鋭い快感が、喜びが、体からだを突き抜けていく。

足の指先ゆびさきがピンと伸び、腰ひわいが卑猥ふるえに震えてしまう。

発情する。はっしょう

指の角度を変えながら、撫でるたびに。

残り滓のりかすのような理性りせいまでもが燃えはてて、

強い快感へ変わっていく。

発情する。はっしょう

目を細めるミオを見つめながら、

取り憑かれたように指を動かす。

2本の指を伸ばして、クリトリスを挟み込む。はさみこむ

敏感なクリトリスを守る、包皮ほうひをこする。

指全体ゆびぜんたいを使って、長いストロークで、こするたび。

先ほどよりも、はつきりとした電撃のような快感が、
大きな波となってやってくる。

ぬるぬる。すりすり。ぬるぬる。すりすり。

鳴き声が、喘ぎ声が、快感で震えて漏れ始める。ふるえ もれはじめる

ぬるぬる。すりすり。ぬるぬる。すりすり。

発情する。はっしょう

指を動かしていたはずみで、

クリトリスの包皮ほうひが剥むけてしまう。

真珠しんじゆのような本体が剥むき出しになり、

指の毛がかすめる。

快感が、意識を一瞬吹き飛ばす。

軽くイク。

体がうねり、背中がのけぞり、体から力が抜けていく。

ミオ

よくできました。

けど、私ももう我慢できません♪

ズ

いったばかりのクリトリスを、

ミオが、ざらついた猫の舌で、舐め回す。

さっき毛が触れただけでイってしまった場所を、

何度も、何度も、舐められる。

そうかと思えば唇で、優しく吸われ、ねぶられる。

そのたびに、

鋭い斬撃のような快感が、

背筋を、頭を、意識を貫き、斬りつけ、

粉々にする。

意識が飛ぶ。

頭の中が真っ白になる。

絶頂する。絶頂する。絶頂する。絶頂する。

ミオ

美味しい♪ 美味しい♪ 美味しいよお♪

㇏

口元くちもとから愛液あいえきを垂たらしながら、

快樂かいらくに蕩とけた瞳ひとみが向けられて、

それだけで、

アナタは絶頂ぜっちょうしながら嬉うれしくなる。

ミオ、ミオミオミオ。ミオミオミオ。

絶頂ぜっちょうする。絶頂ぜっちょうする。絶頂ぜっちょうする。絶頂ぜっちょうする。

ミオ

大好き♪

4

蛇と猫

ミオ

(恍惚くわうくわうとしながら)

ほら、おきて。

まだ裁判中さいばんちゆうなんですからあ♪

SE: 触手音しょくしゅおん

㇏

飛とんでいた意識いしきがもどり、

アナタはミオの方かたを向むいて、

息いきを呑のむ。

ミオ

裁判長さいばんちゆうがね♪

これを使ったセックスを見せたら、
無罪むざいにしてくれるんですって♪

＼

裸になったミオの股間こかんから、

ゼリー状の、太くて大きな触手しょくしゅのようなおちんちんが生えている。
それだけじゃない。

自分の意思を持っているかのように、
ぐねぐねと、生き物のようにのたうっている。

ミオ

太っ腹ですよね♪

最新のエッチグッズを用意してくれるなんて♪
こういうのも、好きでしょう？

＼

ミオがゆっくりと近づいてくる。
近づくほどに、そのおちんちんの大きさが、
かなり大きいことを思い知らされる。

小さなアナタの体からだが受け入れられるのか、
わからないほどの大きさに、

アナタは背徳はいとく的な興奮こうふんを覚えながらも、
少しだけ怖くなる。

ミオ

怖い？

怖いですよね。

こんな大きいおもちゃ使ったことないですものね♪
それじゃあ、不安とりのぞいてを取り除いてあげましょう。

＼

ミオが小さな袋をどこから取り出したかと思うと
牙きばで破やぶき、その中身をぶちまける。

粉末状ふんまつじょうのものが舞まいい散ちって、

アナタとミオを包つつみ込こむ。

甘い香り。切ない香り。

吸い込んだ途端、

全身に、マグマが流れこんだように熱くなる。
これはまたたび。

猫の獣人にとっての強力な媚薬。

息をしているだけで、幸せな気持ちになってくる。

さっきまであった不安な気持ちが、

幸福感に溶けていく、

液体みたいに、

ふにやふにやになった体がソファに沈む。

甘くて、幸せで、気持ちよくて、ふわふわで。

切なくて。苦しくて。

何もしていないのに、壊れた蛇口みたいに愛液があふれてくる。

甘い。苦しい。嬉しい。切ない。

えっちがしたくてたまらない。

けれど、本能に突き動かされる発情とは違って、

全てがキラキラして見える。

まるで宇宙のなかに、ミオとあなたしかいないみたい。

SE：微妙にコズミックな音楽を小音で流します

2

幻想的な音楽まで、どこからか聞こえてくる。

それは宇宙の音楽。

アナタとミオの宇宙の音楽。

アナタはミオとひとつになって、

宇宙を作りたくて、たまらなくなる。

今からカウントダウンしていきます。

ゼロになると、アナタは今までに感じたことがないほどの

強い快感の中で、激しく絶頂してしまします。

5

ミオの唇が、アナタの耳にキスをする。

尖った耳の先端をしゃぶられて、

アナタはうっとりしてしまう。

ミオの唾液が額を伝い、鼻先を濡らし、

アナタはそれを、舌でそっと受け止める。

口の中に広がるミオの香りが愛おしい。

彼女のことを強く感じて、嬉しくなって、

アナタのお腹の奥が、さらにキュうっと切なくなる。

頭の中に小さな光の玉がぼつりと生まれる。

4

アナタの割れ目に、触手のようなおちんちんが押し当てられる。

愛液でとろけていたアナタの割れ目でも、

ぎゅうぎゅうで、きついはずなのに、

ゆるんだからだ、極太おちんちんをするりと飲み込んでしまう。

お腹の内側で、おちんちんがゆっくりと動き始める。

敏感で繊細な、お腹の奥をまとわりつくようにして、

こすられて、重い快感の塊が、アナタのお腹を突き上げる。

頭の中の光の玉が、だんだん温かくなっていく。

ミオ

（快感をこらえながら）
んはあっ♪このおちんちん、
相手の快感を受け取ることも、できるんですって。
私を感じれば感じるほどっ、アナタはもっと気持ちよくなる。
アナタを感じれば感じるほど、んあっ♪私ももっと気持ちよくなるのっ♪
素敵でしょう？

腰が動く。体が揺れる。

揺れるたびに、自分が感じている快感の他に。

ミオの感じている快感が、少し遅れてやってくる。

快感が、二重になってやってくる。

揺れる揺れる揺れる揺れる揺れる。

体が揺れるたび、重なり、ダブった快感が、

アナタの脳みそをチリチリと焦がしていく。

頭の中の光の玉が、どんどん熱くなっていく。

揺れる。揺れる。

硬くなった乳首同士が触れ合って、

互いの胸をこすりあう。

おっぱいから伝わる快感さえも、

二重になってやってくる。

ミオのおっぱいの気持ち良さが、

触れる側と触れられる側、その両方で伝わってくる。

ミオが感じやすいように乳首を当てると、
ますます気持ちよくなっていく。

快感に、意識が^{いしき}ついていけなくなる。

快感が、あふれて、あふれて、あふれて、あふれて。
ミオと溶け合っているかのよう。

ミオ、ミオミオミオミオミオ。

頭の中の光の玉が、燃えるように熱くなる。

1

揺れる。揺れる。揺れる。揺れる。
揺れる。揺れる。揺れる。揺れる。

快感が、世界が、渦巻^{うずまいて}いて。

あなたの周りでぐるぐると回り出す。

揺れる揺れる。
揺れる揺れる。

揺れているアナタとミオの体^{からだ}のほか、

世界の全てがぐるぐる回って、

アナタはどこにいてもおかまわからなくなる。

揺れる。揺れる。揺れる。揺れる。
揺れる。揺れる。揺れる。揺れる。

回る。回る。回る。回る。

おちんちんで繋がった割れ目^{つながつたわれめ}から、お腹^{おなか}から、胸から、

たがいに触れ合う足と足から、

絡めあったしっぽから、全身から、

快感が^{あふれ}溢れ出して。

アナタとミオの体^{からだ}がシンクロしたように、

ガクガクと痙攣^{けいれん}し始める、

快感が、渦巻き、狂った世界の中心から湧^わき上^あがる。

いく。いっちゃう。もう逝^いきそう。

しらないやつ。おおいやつきちゃう。

怖い。気持ちいい。怖い。気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

イクイクイクイク。いっちゃいそう。いっちゃう。

頭の中の光の玉が、燃え盛る炎となって、頭の中を埋めつくしていく。

ゼロ

ぜっちょう
絶頂する。

頭の中の炎が爆発し、快感がアナタの頭を吹き飛ばす。

それは快感のビッグバン。

快感に満^みたさ^たれた宇宙空間が、アナタの全身を飲み込んでいく。

アナタと、ミオしか存在しない宇宙を作り出していく。

ぜっちょう
絶頂する。ぜっちょう
絶頂する。

快感の綺羅^{きら}星^{ぼし}が、アナタたちを祝福するように降^{ふり}りそ^そぐ^ぐ。

ぜっちょう
絶頂する。ぜっちょう
絶頂する。ぜっちょう
絶頂する。

からだ
体がからみ、星が生まれる。

イクイクイクイク♪

ぜっちょう
絶頂する。ぜっちょう
絶頂する。ぜっちょう
絶頂する。

あいえき
愛液がこぼれ、あふれ、天^{あま}の川^のへと変わっていく。

ぜっちょう
絶頂する。ぜっちょう
絶頂する。ぜっちょう
絶頂する。

からだ
体が溶け合い、星に命が生まれる。

絶頂する。絶頂する。絶頂する。絶頂する。

星々に住む、はかない命を眺め、抱きしめながら、

ミオとアナタは、これ以上なく幸福で、心地いい。キスをする。

幸福な宇宙に抱かれて、アナタの意識は、深く、暗い。遠いところへ沈んでいく。

沈んでいく、沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく (FO)

#5
解除

SE: 機械の音

ミオ

おかえりなさい。

で、どうでしたか？ 並行世界は？

あっちはどんな感じでしたか？

こちらでは座標しか確認できなくて。

ん？ 人間が憎い？ 人間、滅ぼす？

ちよ、ちよっと待ってくださいよ。

ほんの3分ほど、向こうに意識を飛ばしただけなのにっ。

なんでそんなに現地に染まってるんです!？

えっと、おちついて。

危害はくわえませんか。

ね。一旦目を閉じて深呼吸でもして。

落ち着いて話し合いましよう？

さあ、一緒に。

すってゝ。はいてゝ。すってゝ。はいてゝ。

そうそんな感じで続けてみましょう。

今から数を数えていきます。いつつ数えると

アナタはいつものアナタに戻ります

ひとつ

冷静に考えてみましょう

本当のアナタは三毛猫の女の子だったのでしょうか

おばかで発情しちゃうような人だったのでしょうか

本当の現実の自分自身のことをじっくりとよく考えてみてください

アナタにはもっと馴染んだ名前や体からだがあったはずで

ふたつ

意識いしきがはっきりとしてきます

周りの匂いや音をじっくりと感じ取ってみてください
自分が今どこにいるのか

ゆっくりでいいので考えてみましょう

みつつ

アナタの体からだに力が戻ります。

手足の感覚がもどり

自由に動かすことができます。

手を握にぎったり開ひらいたり足首あしぐびを回したり

手足を指先ゆびさきから少しずつでいいので動かしてみてください

よつつ

意識いしきがよりはっきりとしてきます。

もうアナタは自分のことを全て思い出すことができます。

今日の予定や明日のことも考えられるようになります。

いつつ

さあ、目を開けて。

アナタはもう、すっかりいつものアナタです

まだ少しふらふらしたり動けなかったら無理はせず

しばらく横になってみましょう徐々に元の感覚へ戻っていきます

動けるようならその場で軽く飛び跳ねてみたり

少し冷たいシャワーを浴びてみるのも

意識がいしきりしていいですよ♪

お疲れ様でした。

ミオ

それではこちらが、今回の治療の報酬になります。

またよかったら、お願いしますね♪

あつ。くれぐれも帰り道は気をつけてくださいね。

お教えした道なら、安全に帰れると思いますけど。

おうちに帰るまでが治療ですから。

ふふふ♪

それではまた。機会があればお会いしましょう。

SE：パソコンをいじる音

SE：ポッドの開く音

ミオ

いつからポッドがひとつしかないと錯覚していたー。

ってね♪

(ぼそっと)

それにしても、向こうの世界のあの子、かわいかったなあ。

また来てくれるかな♪

にひひっ♪